

子どもたちの将来・只見の未来のために 一町が目指すこれからの中学校づくり

少子化が進む中、子どもたちが安心して学び、健やかに育っていける環境を整備することが
今後の町づくりにおいて大切な課題となっています。

“子どもが育てば、まちが育つ”

これからの社会を生きる子どもたちに、より良い学びの場を届けるために、
教育のあり方を検討し、準備を進めていきます。

1.子どもたちを取り巻く環境の変化

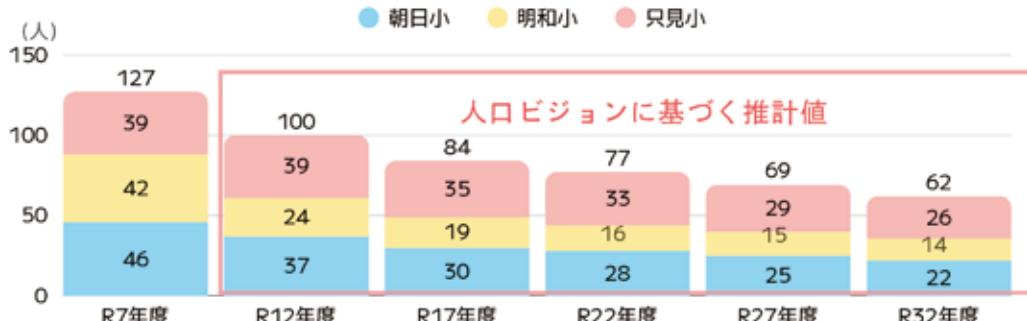


■ 人口減少に伴う教育環境の課題

- 令和5年度以降の出生数は10人を切っています。
- 町内の3つの小学校ではいずれも複式学級になっています。
- こども園および一部の小学校は建築後40年以上経過しており、
現在の保育・教育環境に適した施設環境の整備が喫緊の課題です。



図表1 児童数の現状と将来推計



※将来推計は只見町人口ビジョンと、今後の年間出生見込数を考慮して教育委員会で試算した数値

■ 子どもたちを取り巻く社会環境の変化

少子化時代の 子育て環境の変化

家庭環境の変化により、
子育てへの不安や孤立感
が広がっています。少子
化に伴い、子ども同士の
関わりも減り、集団の中
で育ち合う経験の重要性
が改めて見直されています。

学びのスタイルと 学校生活の変化

ICTの活用や学習内容の多
様化が進む一方で、「小1
プロブレム」「中1ギャップ」
や不登校など、進級・
進学に伴う生活への適応に
課題を抱える子どもたちが
増えています。

子ども一人ひとりに 寄り添う教育の必要性

子どもたちはそれぞれ異
なる背景や個性をもち、
育ち方もさまざまです。
少子化が進む中でも、互
いに関わり合いながら育
ち合える環境づくりが求
められています。

2. 只見町が目指すこれからの教育環境づくり



町では、令和7年9月に提出された「只見町小学校改革審議会」の答申をふまえ、子どもたちが健やかに育ち、自分の力で未来を切り拓けるように、保護者・住民・こども園・小学校・中学校・行政が一体となり、新しい学びの環境を築いていきます。

＼ 答申のポイント／

1. 小学校を速やかに統合すべき

統合により学習活動の充実と子どもの健全な成長につなげる。

2. 統合後の教育方針と学校づくり

小中一貫教育を基本に、学びの連続性を重視した教育を行う。

3. 統合に伴う地域・保護者への配慮

統合までの移行期に、事前交流や情報提供を行う。

目指す子ども像の育成を支える幼小中一貫教育の体制整備

目指す子ども像

「ふるさと只見を愛し、未来をたくましく生きる、心豊かな子ども」



3. 只見町の新しい教育体制の姿



将来の児童・生徒数を見込みながら、幼児期から中学校まで一貫してつなぐ教育体制を整えるために、『幼小中一貫教育』を推進します。

『幼小中一貫教育』

切れ目のない教育体制



こども園・小学校・中学校
の接続が円滑化

幼児・児童・生徒の
異年齢交流が可能

こども園・小学校・中学校
の教員が連携

子どもたちに質の高い教育の場を提供

4. 只見町が目指す教育の基本方針



子どもたちの健やかな成長と、地域の未来を担う人材の育成を目指します。只見町の0～15歳の子どもたちを対象に、保育・幼児教育・小中一貫教育を一体的に推進し、心豊かでたくましい「只見っ子」を育てるために5つの基本方針で取り組みます。

01

只見の自然と文化を活かした教育

子どもたちの豊かな感性と探究心を育みます。

02

只見の知恵と温かさをつなぐ教育

地域住民が共に学び、支え合う「共育」の場を広げていきます。

03

生涯にわたる学びの基盤づくり

保育、幼児教育、小中一貫教育まで、切れ目のない学びを提供します。

04

個性・能力を伸ばす教育

子ども一人ひとりの発達や興味に応じた学びを提供します。

05

地域と共に歩む学校、共に育つ「人づくり」

地域全体で子どもたちの成長を支える体制を強化します。



5. 年代別の主な取組



乳幼児期
(0~5歳)



小学校期
(6~12歳)



中学校期
(13~15歳)

- 認定こども園の施設整備と教育・保育環境の充実
- 家庭教育支援・子育て相談の充実
- 地域行事や自然体験を通じた異年齢交流活動の推進

- 小中一貫教育校舎の整備と教育環境の充実
- 地域文化・自然体験型学習プログラムの実施
- 体力向上や健康教育、生活習慣指導の強化

- 高校進学に向けた学習支援と進路指導の充実
- ICT教育や探求型学習の推進
- 心理・相談支援体制の充実（メンタルヘルスケア）

6. 実現に向けた関係者の役割



教育は町全体の力で支えるものです。保護者・地域・こども園・学校・行政がそれぞれの役割を果たすことで、子どもたちの成長を支えます。

保護者

保護者は、子どもの日々の育ちを見守り、家庭での安心を支えるとともに、学校や地域と連携し、教育環境への意見を共有して町の取り組みに関わります。

地域

地域は、資源や人とのつながりを活かして子どもの体験と学びを広げ、地域行事や交流を通じて「ふるさと」への誇りを育みながら、学校・家庭と協力して見守りと支え合いの関係を築きます。

こども園

こども園は、遊びを通じた学びの中で子どもの主体性・好奇心・考える力を育み、家庭や地域と協力しながら人格形成の基礎を培うとともに、交流活動を通じて幼児教育と小学校教育の円滑な接続を促します。



学校

学校は、子ども一人ひとりの成長に寄り添いながら質の高い教育を提供し、保護者や地域と連携して開かれた学びの場をつくるとともに、幼児期から中学校までのつながりを意識した教育を展開します。

行政

行政は、教育環境の整備や制度づくりを担い、保護者・地域・教育機関の声を受け止めて政策に反映しながら、町全体で子どもを育てる持続可能な体制づくりを推進します。